

古墳時代の生活遺跡

弥生時代が終って古墳時代になると、さらに遺跡の数が増えていきます。集落を見ると、前半期は四角い竪穴住居が主ですが、やがて現在の家の構造に近い掘立柱建物が多くなってきます。立地も山際の斜面に造られることが多くなり、集落の景観も弥生時代とは異なるものになっていくようになります(詳しくは四巻を参照)。

五反田遺跡・徳見津遺跡

(安来市吉佐町)
 ...鍛冶屋の村が明らかになった...
 安来道路建設に伴い調査され、低い丘の斜面から数多くの古墳時代終りごろの住居跡が出てきた。鍛冶に使う炉の跡や炭窯も出ており、鍛冶屋の村だったようだ。炉のまわりの土をふるいにかけて水洗いすると、非常に小さな鉄片が出てきた。焼けた鉄をたいたときに飛び散る火花が冷えたものだ。現在、島根県で最古の本格的鍛冶屋。玉など、祭りの道具も出た。隣りにある山の神遺跡からも、同じころの集落跡が出ている。



五反田遺跡



徳見津遺跡



やがしら 矢頭遺跡 (宍道町白石)
 古墳時代中ごろの住居跡7棟が出た。和牛共進会場建設に伴って調査された。



よつづこ 四ツ廻遺跡 (東出雲町高庭)
 丘の斜面から、古墳時代の住居跡が10棟以上出てきた。住宅団地に伴って調査された。



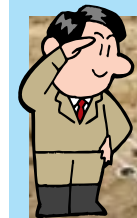
つづみこ 堤廻遺跡 (松江市西川津町)
 丘の斜面から古墳時代の竪穴住居跡・建物跡が23棟も出てきた。現在は松江第二中学校。

発掘いぼれ話

柱穴

掘立柱建物は、竪穴住居跡のように全体を掘りくぼめたりはしません。ですから建物の規模や方向を決めるときは、柱の穴の並び方を観察します。このとき同じ所に一軒分しか柱穴がなければ話は簡単ですが、建物の建て替えや重複で何軒も重なっていると大変です。一見すると、無数の柱穴が乱雑に配置してあるようにしか見えません。

こつこつ場合、もつれた糸を解きほぐすように柱穴を整理していったら、一軒一軒建物を復元していくくしかありません。そのために足場の上から何時間も眺めたり、測量をして図上で頭をひねったりします。遺構を掘れば調査は終了、というわけではないのです。



高広遺跡の掘立柱建物跡
 柱がいっぱいある中から、建物を組んでいる

飛鳥・奈良時代以降の生活遺跡

奈良時代以降になると、家は一部を除いてほとんどが掘立柱の建物になります。奈良時代ころは、古墳時代終りころと同様に、山ぎわの斜面をつまぐ利用して家を建てている例が多く見られます。平安時代の生活遺跡については、後半以降のものになると、調査例はあまり多くありません。しかし近年では調査も増えはじめ、商品流通が盛んになっていく様子が、出土品からわかっています。



おおたけ 大峰遺跡 (益田市上久々茂町)
 益田川を見おろす丘の上の平坦地から、中世の建物が出てきた。国道191号線のつげかえ工事に伴い調査された。



おおえき 大益遺跡 (益田市高津町)
 奈良から平安時代にかけての建物が、山の斜面を削って造られていた。塩を作る土器(製塩土器)も出てきた。石見空港の建設に伴い調査された。



ふるいち 古市遺跡 (浜田市上府町)
 下府川に近い平地で、平安時代から鎌倉時代にかけての建物跡や井戸跡などがたくさん出た。生活用具も中国の青磁、白磁をはじめ、日本各地の焼き物や木の人形など、通常の遺跡ではあまり見られないものが多く出た。近くに、石見国府の役人の家があったのかもしれない。古代から中世にかけての流通経済の発展を考えるうえでも、重要な調査となった。現在は住宅地になっている。

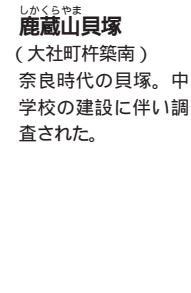
てんまんがに 天満谷遺跡 (松江市大草町)
 平安時代終りごろの掘立柱建物跡が、中国製の白磁などとともに出てきた。送電線鉄塔建設に伴い調査された。



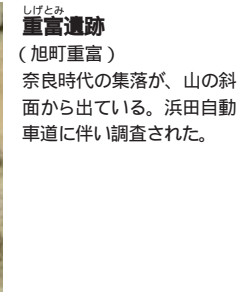
しるつき 白坏遺跡 (大田市水上町)
 奈良時代から平安時代にかけての建物跡が出てきた。木に文字を書いた木簡がたくさん出ており、なかには九九の練習をしたらしい木簡もある。今は学校。



しかくらやま 鹿蔵山貝塚 (大社町杵築南)
 奈良時代の貝塚。中学校の建設に伴い調査された。



しげとみ 重富遺跡 (旭町重富)
 奈良時代の集落が、山の斜面から出ている。浜田自動車道に伴い調査された。



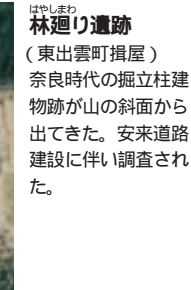
かみながはま 上長浜貝塚 (出雲市上長浜町)
 平安時代の大規模な貝塚。大部分がヤマトシジミで、当時はもっと広がった神西湖(神門水海)あたりで採ったものだろう。現在、この一部が道路になっている。



しらishi 白石遺跡 (仁摩町天河内)
 方向を東西南北に合わせた、鎌倉時代の掘立柱建物跡が11棟出てきた。中国製の青磁、白磁も多く出土。健康公園建設に伴い調査された。



はやしまわ 林廻り遺跡 (東出雲町揖屋)
 奈良時代の掘立柱建物跡が山の斜面から出てきた。安来道路建設に伴い調査された。



かど 門遺跡 (頼原町志津見)
 奈良時代から平安時代にかけての、大型で整った掘立柱建物跡が多く出た。公的な建物が建っていた可能性もある。志津見ダム建設に伴い調査された。

